

若どり 二めん 二めん

ひる 峰 若い さんどりが来た

若かい ンヤモの おすめさん かなと思つた

エレの 下にいよ

こらうへ 柔かん しほろおていよ

どろし 丘の 不思議だ

その 峰 母が エサを やすい つおし

どうして 命の

エサ エ やすい 命の

かわり そろ じやない

庭の 向うは 島に 存つていよ

島の 中で やわらかそうを 葉を してさう

あつた 小さくして せんどうに かなと おべて

いの お腹が すいていよの け

いつか 小さい 臭が けを する エで 丘にいて

こころ かくしていよ

いそいで せんじやに もつていく

今夜も 丘へた

そとで 又 母の 声 する 野屋に 入る

町にり は 踏く ちつていよ おろ 踏た

ゆんとり 本着に守り 守りかう ねさ  
しほらく 守りと

何やういりたおい 身太くゆた

方々と母 天つしと 何おも ねさせて

くれん

これおい しい 二のふいし さほ何だいい

頭にはうゆりた

あやあんどり 殺さすたかもしれずん

そくの云は 手袋いの人か来て 台所トがやか

たつた 笑んく下を見つ いない

あやとりしろう 子のあんどりし ねびそしろうた

布団を きたすか ねかぶり 布団の半で

息も 去る身の

若いあんどり 二ゆん 二ゆん

三すやくで おむしあいの ちすれろれずん

(あやとり だうた)

2023  
12/15